立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
大学院生研究
２０１２年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院前期課程後期課程　研究科　観光学研究科　専攻		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
	観光学研究科観光専攻３年次	Ranawaka Chathushka　印	
指導教員	所属･職名	氏　名	
	観光学部・教授	稲垣　勉　印	
自然・人文・社会の別	自然　・　人文　・　社会	**個人・共同の別**	個人　・　共同　名
研究課題名	スリランカ・ゴール旧市街における観光地化に伴うジェンダー関係の変容		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
	立教大学観光学研究科観光学専攻博士課程後期課程３年次	ラナワカ・チャトゥシカ	
研究期間	２０１２年度		
研究経費	200　千円（実績額又は執行額）		

研究の概要（200～300 字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究は観光地で観光と直接関わっている地域住民に焦点を当てている研究である。調査地はスリランカ共和国の世界文化遺産であるゴール旧市街である。そして旧市街の観光開発が地域社会に与える影響を、参与観察とインタビュー調査を含む質的調査研究方法に基づき、特に観光と女性の労働との関係を明らかにすることを目的としていた。ゴール旧市街地はスリランカの他の地域と比較し、統計上では観光客の数は増加している。だがこのような急速な観光開発が、古くから存在するゴール旧市街地の地域社会のジェンダー関係に与える影響はまだ明らかになっていない。本研究はこの問題を明らかにすることを目的とした。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔　ゴール旧市街　〕〔　観光地化　〕〔　ジェンダー　〕

研究成果の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

ゴール旧市街は 14 世紀にアラブ人が貿易拠点として入り、16 世紀から 20 世紀の半ばまでヨーロッパ諸国の植民地にされた。そのため、この時代にヨーロッパ風に建てられた建物が、その歴史的意義から 1988 年に「ゴール旧市街とその要塞」が世界文化遺産として登録された。スリランカにおいて観光産業は大きな役割を果たしている。それは 2011 年には観光収入は国家収入の 6 番目になっていることからも分かる。そのなかでもゴールはスリランカ第一の観光地になっている。そして、2011 年にはスリランカにおける観光客数が最も多く増加した。

スリランカにおけるジェンダー関係とジェンダーの問題点は、いわゆる一国レベルで考えることが出来ない状態にあることである。その理由は、「民族グループ≒宗教グループ」という関係があるからである。ジェンダーに関する位置付けや観念も宗教によって大きく異なっている。また、スリランカでは民族を構成する要素としても宗教が存在するため、民族と宗教との間に強い関係が存在する。

本研究は以上の問題を明らかにするための調査方法として、①聞き取り調査 ②参与観察 ③文献調査 ④250 件のアンケート調査などを行った。

観光開発とジェンダーに関する多くの文献では、女性は観光開発プロセスにより社会を変えて行くことが論じられているという議論がなされている。また、観光が導入されることは、次に生じる観光開発の一つの先駆けであり、媒介者として機能しているという議論もなされている。

本研究は現地での調査結果によってゴール旧市街の観光地化の過程を明らかにした。ゴール旧市街は、世界文化遺産認定に伴う観光客の増加を背景として、観光地化が進み、住宅の改築、商売目的の新住民の増加、旧市街住民の流出、雇用先の変化、服装の変化など様々なことが起きていることが明らかになった。観光開発プロセスにより、観光が導入されると同時にゴール旧市街観光では、観光が媒介者として機能していることが理解できた。

また、家庭で仕事をするというのは地域住民にとっては自由がある仕事だったこと、外貨の流出が少ないことが分かった。家庭における収入がごくわずかのものだが、意味を持っていると言える。 家庭におけるビジネスの収入が小さいとはいえ、逆に外貨の流出は多くない。つまり、自分で稼いで得た収入は 100%手元に残る。そうすると、主婦としての手仕事は Aman Resort のような巨大な投資より有利という議論が可能である。

しかし、この地域に観光が導入されることによって Muslim law と新しく作られていく価値観の間のぶつかり、または衝突している状況が生じていることも把握できた。以前の価値観、現在の状況、そして、将来の価値観を左右する道具として観光があげられる。自分の家の前を観光客が通ることによって、収入を得る手段を考え、それはその家族の次の世代を支えることが可能であることが明らかになった。また、そのビジネスから得られた収入でより高い教育をさせる意識が確認できた。それは社会として階層をもう一段上るための手段として位置付けられているといえる。これを含め観光は家庭におけるジェンダー関係の大きな力を持ち始めていると言える。

研究成果の概要　つづき

女性が働いている場合、コミュニティにおけるジェンダー関係を調べると夫婦間の価値観の相違があることを明らかになった。旧市街観光の場合は、かせぎ手である女性が新しい価値観をコミュニティに伝える際の媒介者となっている。つまり、新しい価値観を家族またはコミュニティに伝える媒介者として女性の方が強く機能していることが理解できた。ムスリムの女性の場合は外の社会に出るのではなく、自分の家に留まり仕事をするというように、よりイスラムの価値観に近い社会の形をとっている。このようにイスラムの価値観に近い形をとりながらも、自分たちの経済的利益を上げていっている。それはイスラム社会のなかにおける摩擦を最小化していると言える。しかし同時に、女性の意識は変化してゆき、その変わった意識は社会を変えていくのではないかといえる。

女性が観光産業に従事することにより、自由に使えるお金が増えていることが理解できる。また女性の収入はない場合でも、無償労働として女性の力が使われており、女性が経済的にエンパワーメントしていること理解できる。また、女性の雇用先が増えている一方で、大きなホテル、レストランで雇用される場合には性別による制限があることも分かった。 旧市街では雇用すると同時に女性のネットワークが強くなることにより、習慣、日常生活などが変化していることより、社会的エンパワーメントされていた。心理的なエンパワーメントは自分には以前より自信がついたこと、判断能力が高まったこと、外国人との直接会話ができる能力がついたこと、に現れている。政治的なエンパワーメントは、選挙の投票の際に男性にたよらず、自分の意思を伝えることができるようになっていることから明らかである。 以上をまとめると、ゴール旧市街における女性のエンパワーメントは４つの側面がある。

最後に本調査は以下の４つの結論にまとめることができる。①観光化が地域住民に自宅など資産の活用、家庭内労働の商品化を通じて新たな所得稼得の機会を提供すること、②家庭内労働の商品化を通じてムスリム女性を含む、女性の社会進出が進んだこと、③観光化にともなう女性のエンパワーメントは経済的面が一番強く観光から得た収入は子供の教育に使用していること、④女性のエンパワーメントにともない配偶者男性の家庭における意識も変化すること、である。

※この（様式２）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）